

大内秀明 【著作（全）】 54 冊（うち単著 19 冊＝太文字） 一覧

（論文は 321 +  $\alpha$  稿）

- 1960 『経済学原理論（上）』 鈴木鴻一郎編に執筆、東京大学出版会  
1962 『講座戦後日本の思想 2』 日高普編に執筆、現代思潮社  
1962 『経済学原理論（下）』 鈴木鴻一郎編に執筆、東京大学出版会  
1964 『資本論講座 7』 大内力編に執筆、青木書店  
1964 『教養経済学』 東北大学教養経済学研究科編に執筆、昭学社  
**1964 『価値論の形成』東京大学出版会**  
**1966 『景気と恐慌』紀伊國屋書店**  
1966 『経済学概論』 大内力・戸原四郎との共著、東京大学出版会  
1967 『資本論研究 II・III』 宇野弘蔵編、筑摩書房  
**1970 『転機に立つ日本資本主義』現代評論社**  
**1971 『宇野経済学の基本問題』現代評論社**  
1971 『戦後思想家論』 「現代の眼編集」に執筆、現代評論社  
1972 『日本の土地問題』 佐伯尚美・小宮隆太郎編に加藤栄一と共同執筆、東京大学出版会  
1972 『意識の中の日本』 日高六郎編に執筆、朝日新聞社  
1972 『宇野弘蔵をどうとらえるか』 清水正徳編に執筆、芳賀書店  
**1972 『多極化のなかの日本経済一戦後体制の崩壊と再編』河出書房新社**  
**1974 『日本資本主義の再編成』現代評論社**  
1975 『講座・現代資本主義（全 6 巻）』 鎌倉孝夫・新田俊三との共編著、日本評論社  
1976 『過疎の実証分析』 斎藤晴造編に執筆、法政大学出版局  
1976 『資本論研究入門』 櫻井毅・山口重克との共編著、東京大学出版会  
1976 『経済原論』 鎌倉孝夫との共編著、有斐閣  
1978 『現代社会主義論争』 「朝日ジャーナル編」に執筆、学陽書房  
1978 『現代の景気と恐慌』 大内力編に執筆、有斐閣  
1978 『マルクス経済学の現状と展望』 櫻井毅・山口重克との共編著、東洋経済新報社  
1979 『現代の国家と経済』 柴垣和夫との共編著、有斐閣  
1979 『マルクスを読む [資本論講義]』 (野坂昭如との共著、朝日出版社)  
1979 『宇野弘蔵』 鎌倉孝夫・林建久・佐伯尚美との共著、有斐閣  
1980 『80 年代の構想』 富塚三夫・高木郁朗・新田俊三との共著、毎日新聞社  
1981 『自立への熱望—ポーランド 1980 年』 (富塚三夫・新田俊三・高木郁朗との共著、国際文化出版社)  
1982 『講座・今日の資本主義』 柴垣和夫との共編著、大月書店

**1984『資本論』の常識』講談社**

1984 『ヨーロッパの政権と労働組合』 真柄栄吉との共著、第一書林

1985 『参加・創造・社会政策』 福田豊・鎌倉孝夫との共編著に執筆、ありえず書房

1987 『九〇年代の構想』 高木郁朗編に執筆、ぱる出版

1988 『いま、税金を考える』 (木村武司・樋口兼次との共著＝編著者、三一書房)

**1989『連合新時代の構図』第一書林**

1989 『土井社会党一政権を担うとき』 田中慎一郎・福田豊・高木郁朗・新田俊三との共著、明石書店

**1990『新しい現実と社会民主主義』第一書林**

1990『ソフトノミックス』日本評論社

1991『世界と日本・新しい読み方』講談社

1991『もう一人のマルクス』日本評論社

1992 『転換と新しい構想—ヨーロッパの政権と労働組合』 総評センター編に執筆、第一書林

1998『東アジア地域統合と日本経済—アジア単一通貨への道』日本経済評論社

1999『知識社会の経済学——ポスト資本主義社会の構造改革』日本評論社

2005『恐慌論の形成』日本評論社

2005 『転換する資本主義：現状と構想』 村上和光・半田正樹・平本厚編に執筆、御茶の水書房

2007『賢治とモリスの環境芸術』単独編集、時潮社

2010 『宇野理論の現在と論点』 櫻井毅・山口重克・柴垣和夫・伊藤誠編に執筆、社会評論社

2012 『協同の力で復興を—「東北」の豊かな資源を活かす』 (半田正樹・田中史郎との共編著、変革のアソシエ)

2012『ウィリアム・モリスのマルクス主義』平凡社

2014 ウィリアム・モリス、田・B・ボックス『社会主義——その成長と帰結』 (監修、川端康雄監訳、晶文社、二〇一四年)

2014 『土着社会主義の水脈を求めて』 (平山昇との共著、社会評論社)

2020『日本におけるコミュニタリアニズムと宇野理論』社会評論社

2022『甦るマルクス——「晩期マルクス」とコミュニタリアニズム、そして宮澤賢治』社会評論社